○議長（吉田敏郎）

日程第２　一般質問を行います。質問の順序は通告順に行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（吉田敏郎）

御異議なしと認めます。よって、一般質問は通告順に行うことに決まりました。

それでは、一般質問に入りますが、質問、答弁は簡潔にお願いをいたします。

それでは、１１番、前田せつよ議員、どうぞ。

○１１番（前田せつよ）

皆様、おはようございます。議員番号１１番、前田せつよでございます。

通告に従いまして、次のとおり質問をいたします。持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の推進を。

ＳＤＧｓは、２０１５年９月、国連サミットにおいて、持続可能な世界を実現するために２０３０年までの国際目標として採択され、先進国と発展途上国がともに取り組むべき社会全体の持続可能な開発目標であり、１７のゴール、１６９のターゲットから構成がなされておりまして、地球上の誰一人取り残さないということを誓っております。

現在、国の「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されている県及び市町村は、小田原市を含む６０の自治体でございます。本町では、ＳＤＧｓ達成に向けた取り組みの一つとして、第五次開成町総合計画において環境負荷の低減を掲げ、エネルギーの地産地消の推進、ごみの減量化・資源化の推進を挙げておるところでございます。

ＳＤＧｓは、一人一人が身近な社会の課題を自分事と考え行動することからはじまり、それが目標に向けた第一歩であることから、自治体の責務として町民に対してＳＤＧｓを周知することがまずもって重要と考え、次の事項を問います。

１、全国初のＺＥＢ庁舎が来年度には供用開始であることを柱に、「ＳＤＧｓ未来都市宣言」を行うための取り組みを展開するべきと考えるが。

２、町協働の思いから活動をなされていらっしゃる町民公益活動団体等に対して、ＳＤＧｓ思考を促進、支援するべきと考えるが。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、前田議員の御質問にお答えします。

その前に、御質問で一つ目、「全国初のＺＥＢ庁舎」という表現があるのですけれども、実は、開成町でも最初のころは「全国初」とか「日本初」という言い方をしておりました。今、紛らわしいので、国も「日本初」という表現をされていますので、今は統一的に「日本初のＺＥＢ庁舎」ということを使っておりますので、ぜひ、ＰＲをするときには「日本初」ということで使っていただければなというふうに思います。

それでは、最初の１問目の御質問にお答えをいたします。

ＳＤＧｓは、複雑化・多様化する社会課題の解決に向けた包括的な取り組みであるため、具体的な活動内容、あるいは「自分事」としてのイメージが湧きにくいものと言えます。一方、ＳＤＧｓの１７のゴールは相互に関連し合うように設定されており、一つのアクションが第一歩となり、さまざまなゴールにつながり、ＳＤＧｓ達成に結びつくことが特徴となっております。

開成町では、町政の柱となる第五次開成町総合計画後期基本計画にＳＤＧｓ達成に向けた取り組みをまとめ、その方向性を示しました。総合計画にまとめた取り組みの方向性は、国際社会全体の開発目標であるＳＤＧｓが目指すゴールとスケールは異なるものの、その目指すべき方向性は同様であることから、総合計画の推進を図ることでＳＤＧｓの目標達成に資するものと考えております。

開成町は、総合計画に基づく計画的なまちづくりによって発展を遂げてきました。また、社会経済情勢の変化を踏まえ、子育て支援、教育、健康、安全・安心、環境などの分野に優先的に取り組むとともに、多様な担い手の協働によるまちづくりにより各施策を推進してまいりました。今後も、ＳＤＧｓの１７のゴールから地域課題を見詰め直すことによって、開成町の持続可能なまちづくりや町民の満足度を高めるための戦略的なまちづくりを推進するとともに、さまざまな関係者とのパートナーシップにより新たな公共サービスの創出や地域の課題解決を図ってまいります。

今年度、「開成町　まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定に向けて、開成町地方創生推進会議の中で町民、企業、各種団体、行政等の代表者の皆さんと協働の取り組みについての意見交換を行い、地方創生の推進に向けた具体策を検討しているところですが、この策定の中でもＳＤＧｓの理念に沿った施策体系の構築作業をあわせて進めております。このようにＳＤＧｓという個別の枠組みにとらわれず、町の特性を生かした仕組みづくりに向けた協議を進め、その仕組みや施策に対してはＳＤＧｓの理念を反映してまいります。

次に、２点目についてお答えをいたします。

神奈川県が今年実施をした県民ニーズ調査では、ＳＤＧｓの県民認知度が２割弱にとどまっているとの調査結果でありました。自治体としてのＳＤＧｓの目標達成に向けた取り組みは、町民や町民公益活動団体、企業などと連携し、オール開成で取り組む必要があると考えております。社会的課題を「自分事」と考え行動するためには、一人一人ができるちょっとした気づきや行動がＳＤＧｓ達成につながることから、日常生活で身近な環境分野などにおいて、ＳＤＧｓの目標につながる活動を行う町民公益活動団体の取り組みについての周知や、ＳＤＧｓを活用して団体の活動をアピールする場の提供等によりＳＤＧｓ思考の認知度の向上に努めてまいります。

総合計画にまとめたＳＤＧｓ達成に向けた取り組みの一つである「多様な担い手との協働の推進」の実現に向けては、令和２年度に開所予定の町民活動サポートセンターにＳＤＧｓに関する掲示コーナーを設けるなど、まずは町民や町民公益活動団体等へＳＤＧｓの認知度を高め、機運の醸成を図っていきます。

今後は、「ＳＤＧｓ未来都市」に選定された神奈川県とも連携し、ＳＤＧｓの理解に向けた情報発信・普及啓発に取り組んでまいります。

以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

一定の答弁をいただきました。

再質問に入る前に、議長に御許可をいただきましたので、ＳＤＧｓの現在、世界中に広まっていますロゴ、それからロゴをちょっと御紹介させていただきたいなと。皆様もお目に触れたかと思うのですが、これが先ほど来から申しあげております、１７色ありまして、１７の目標ということが四角のロゴでございます。そして、この丸の部分が、また、それをあらわして、私も今日、また同僚議員もバッジをつけてございますが、ＳＤＧｓ推進のための、これも１７色ということで、これがやはり視覚的に訴える形で、国連としても、これを皆さんに大いに使っていただきたいということで配信をしているものでございます。

そして、この１７のロゴに関しましては、三つの視点からつくられていると。社会開発、経済成長、環境保全、この三つを網羅する形で１７分割されたカテゴリーがあるということで、その下に１６９のターゲットもあるわけでございますが。

それでは、再質問に入らせていただきます。

先ほどの町長答弁では、ＳＤＧｓの理念に沿った施策体系の構築作業を進めているという御答弁をいただきましたが、具体的に町として方向性を内外に示したまちづくりを展開していく意味から、国から「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されるような取り組みに挑戦するべきだと考えますが、その点、いかがでしょう。

○議長（吉田敏郎）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思います。

ただいま未来都市の申請をしていくべきだというお話でございましたけれども、ＳＤＧｓに関しまして、今、開成町として総合計画に位置づけをさせていただいたというところまでは進んできておりますけれども、町民の皆様方はＳＤＧｓに関する意識ですとか知識がまだまだ不足している状況であると認識してございます。今後、そういう展開の中で、そこの未来都市としての申請を行っていくということはあるとは思いますけれども、当面は神奈川県等と連携をしながら開成町民の皆様にＳＤＧｓの意識を浸透させていくと、そういうことを優先して取り組んでいきたいと考えてございます。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

先ほど町長の最初の御答弁の中で、日本初のＺＥＢ庁舎であると。これは、唯一無二の、まさしくＳＤＧｓについてもかなりＰＲが、本当に全国に向けて配信するべき大きな事柄でございます。それを持っている開成町としては、もちろん神奈川県と連携してのＳＤＧｓに対する宣言ということもあろうかと思いますが、やはり地方分権の時代でございます。しっかりと県にハッパをかけるような勢いで、ＳＤＧｓの宣言都市になるのだという強い思いを、この日本初のＺＥＢ庁舎から私は感じ取りたいなと思うところでございますが、その日本初というＺＥＢの庁舎の視点からも、「ＳＤＧｓ宣言都市」に向かっての意気込みを再度、質問いたします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

表現の仕方が前田議員からの未来都市宣言という形でありますけれども、今年の１月に横浜で全国のＳＤＧｓフォーラムというのが黒岩知事が主催して開催されました。全国から９３の自治体。そのときに「ＳＤＧｓ日本モデル」ということで宣言をさせていただきました。開成町も、そこに出席をさせていただきましたので、そういう意味では、ＳＤＧｓのモデルとして宣言の中に加わって一緒にやっていくということはきちんと表明はしております。

今、言われている未来都市宣言というのは、あまり言葉は聞いたことがないのですが、未来都市の認定を国から今、神奈川県とか小田原がされて進めているということは理解はしておりますけれども、その前段で、もう既にモデルとしてやっていこうと、そういう意味で総合計画の中にきちんとＳＤＧｓを位置づけをしたという中で、今回、新庁舎が日本初のＺＥＢ庁舎ということですので、これは、もう改めて、ＳＤＧｓにも絡みますけれども、きちんと日本に発信をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

それでは、その先の部分ですね。モデル事業都市として神奈川県も小田原市も選定されたと。それが、１０のうちの一つに小田原もなったわけでございますが、その先のモデル事業の自治体として選定されるぞ、認定されるぞという思いの点はいかがでございましょう。

○議長（吉田敏郎）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

モデル事業の選定を目指すということでございますけれども、先ほどの御答弁とも重複しますけれども、未来都市、それとＳＤＧｓモデル事業への選定を図っていくと、目標にしていくという方向は、今後の展開の中ではあろうかと思いますけれども、ま

だまだ、その段階に開成町として至っていない状況であるという認識は持ってございます。

ただ、先ほど町長からも申しあげましたとおり、日本初のＺＥＢ庁舎、そういう象徴となるものがございますので、きちんと、その辺は、どういう立ち位置の中でそういうものをどのような方法で発信していくのか、そういうものをきちんと検証しながら、未来都市であるとかＳＤＧｓモデル事業の選定を目標としていくのかどうか、そこも含めて今後検討してまいりたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

それでは、ここで具体に。先ほど掲げさせていただきました１７のターゲットがあるわけでございますが、「貧困をなくそう」だとか、あと「つかう責任、つくる責任」とかというフレーズがさまざま、１７の項目の中にあるわけでございますが、ＺＥＢ庁舎がＳＤＧｓの項目の中の１７のターゲットの中の何番に属して、それをもってさまざまなところで町は国に、日本国内にプレゼン、配信をされているとも聞いてございますので、それを具体にひもづけた形のお話をいただければと存じます。

○議長（吉田敏郎）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、庁舎ということですから、私からお話をさせていただきたいと思います。

開成町がＺＥＢ庁舎の建設に踏み切りましたのは、環境に負荷をかけない生活様式の見直しを行うとともに、将来にわたって安心して住み続けられるまちづくりにおいて、まず公共建築である町役場が地域建築物のモデルとならなければならないと、こういった思いから取り組みはじめたものでございます。

御質問のＳＤＧｓとの関係で申しあげますと、本町のＺＥＢ庁舎の整備につきましては、まずゴールの７、ゴール７ですね、「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」におきまして、公共建築物が率先して省・再生可能エネルギーを推進するという姿勢をまずお示しすること。

これにとどまることなく、ほかにもゴールの１１、「住み続けられるまちづくりを」における大気質の改善を含む地球環境への負荷低減、それからゴール１２、「つくる責任、つかう責任」における化学物質等の大気への排出低減、ゴール１３、「気候変動に具体的な対策を」における温室効果を持つ大気汚染物質の排出抑制、それからゴール３、「すべての人に健康と福祉を」における大気質の改善に向けた取り組みによる人々の健康の増進ということで、このような形の中で開成町の新庁舎というのはＳＤＧｓを意識したまちづくりの目標達成に活用し得るコンテンツの一つであると位置づけてございまして、議員御質問の中にございましたけれども、私も、これまで３回、４回ほど、各地に赴きまして開成町の取り組みをお話しさせていただく機会をいただいております。

その節には、この内容を常にお話を申しあげて、庁舎を建てるということだけが目的ではじめたわけではありませんと。そして、これからが重要なのですというお話を常にさせていただいております。今後も、当然、建設が終わりますと全国から視察の御要望があろうかと。既に幾つかいただいていますけれども、こういった折には必ずこういった話をさせていただいて、少し話を大きくする形の中で庁舎というものを位置づけてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

それでは、神奈川県民のＳＤＧｓの認知度が先ほどの答弁では２割程度であったと。本町を鑑みますと、本町もしっかりと認知度を、町としてもＳＤＧｓの認知、周知をさせていく必要性があろうと。それは御答弁の中で共通認識をさせていただいているところではないかと思いますが、例えば、具体の対策として、町はどのような形で町民に対してＳＤＧｓ思考を周知、啓発していくというのか、それについて質問をさせていただきます。

例えば、広報誌に、１７のゴールがございますが、１７回とはいわずシリーズ化した形で載せていくとか、本当に身近な形でさまざまな周知の展開をお願いしたいなと思いますが、その具体の内容を御答弁願います。

○議長（吉田敏郎）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

普及啓発ということでございます。まず、先ほどから申しあげているとおり、また前田議員からも御指摘いただきましたとおり、県民、町民のＳＤＧｓに対する認知度、これをまず上げていく取り組みが必要なのだろうと考えております。その上で、さまざまな場面で、先ほど御紹介いただきましたロゴマークであったりとか、そういう目指す社会を身近に感じていただけるような雰囲気を醸成していくということが大事なのだろうと思っております。

今、ちょっと広報のお話をいただきましたけれども、当然、広報等の媒体は最大限活用して、ＳＤＧｓという考えが日ごろの活動の中に入ることで、より充実して、より意味のあるものになると。世界共通の目標に向かって皆さんの取り組みがつながっていくのだということを感じ取っていただけるように、まずはロゴマーク、いろいろなところに掲示するですとか、いろいろなポスターですとかチラシですとかをつくる際に目立つように一緒に印刷をしていくといったような、まずは目に触れていただく機会を増やすということを普及啓発の最優先事項として取り組んでいきたいと考えてございます。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

ＳＤＧｓに関する件で、先ほど町民活動サポートセンターがいよいよ開設予定であると。その中で掲示コーナーを設けるという御答弁がございましたが、その中でのイメージとしては、ＳＤＧｓをどのような形で町民活動サポートセンターの中で存在感を持って、また、そこにおいでになるさまざまな団体の方に啓発する意味の形の掲示コーナーというのは、どのように具体にお考えなのか答弁願います。

○議長（吉田敏郎）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（小玉直樹）

それでは、私からお答えしたいと思います。

まず、来年の令和２年度に開設予定の町民活動サポートセンターのコーナーの一つとして、先ほど前田議員も資料として出されましたけれども、１７色の１７の目標のロゴ、それをカラーで少し拡大して掲示したりとか、先ほど県民ニーズ調査で認知度が低いという話があったのですけれども、なかなかＳＤＧｓというのは１７の目標の分野が広過ぎて、質問でもあったように「自分事」としてなかなか捉えられないといったような形もありますので、ロゴとあわせて、神奈川県では自分でできる常日ごろのちょっとした行動とかというのも実際にチラシとかでもありますので、そういったものを拡大したり掲示したり。

また、いろいろな町民公益活動団体、さまざまありますけれども、例えば環境分野ですとか、そういった町民に身近な活動をしている団体が、こういった１７の目標で活動がつながっているのだよと、そういった紹介とかもあわせて町民の認知度を上げていきたい、周知していきたい、そのように考えているところでございます。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

町民公益活動団体のお話が自治活動応援課長からお話がありましたが、ここで具体に、ＳＤＧｓをまず熟知していただくには、一番近いところにいる団体の一つであろう町民公益活動団体の方々のお一つを、さらにＳＤＧｓの視点から、町として、社会的な責任が課せられている町行政として、どのような支援態勢が現況なされているのかなということも含めまして、１点、具体の質問をさせていただきます。

町民公益活動団体ということで、数カ月前でしょうか、自治活動応援課からパンフレットが出されまして、幾つかの団体を御紹介になっておるところでございましたが、その一つの団体のことを今から取り上げさせていただきますが、この団体はボランティア精神のもとにさまざまな活動を下さっておりまして、活動の一つということで１６年も前から、各家庭から出される廃油を集めて資源に還元していこうという取り組みをなさっています。その発端は、開成町の水質検査からはじまって、大変だということで、その取り組みをなさって今日に至っていると聞いたところでございます。

廃油を集めて、それは、その会の会員さんのお宅を中心として、また、会員さんの

ところに人づてで集めて、現在は年に６回ほど集めていらっしゃると聞いておりますが、それで売却をする、または一部、廃油を使って石けんをつくって協力していただいた方に配付をしているということであるわけでございますが、１６年目になった今年度、９月１日にはじめて町民全体に向けての廃油の回収が行われて、３３名の方が１３キロ集まったということでございました。大変好評で、その後、その団体や、また町にも、「今度、いつ油を集めてくれるのですか」という問い合わせがあったというものでございますが、かかわった町として、その声をどのように捉えて今後発展していくのか、答弁願います。

○議長（吉田敏郎）

環境防災課長。

○環境防災課長（石井直樹）

質問にお答えしたいと思います。

今、議員が言われたように、廃油の回収につきましては年に６回、消費者の会の方の協働のもと、回収の実施をさせていただいております。９月１日、防災訓練の後には、廃油の回収を町民向けにさせていただいたというところでございます。また、今後、来月、もう一度、そういった会を設けて回収をさせていただくという予定でございます。今後につきましては、消費者の会の皆さんと場を設けまして、もう一度、推進に向けて検討していく場を設けたいと考えております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

今、課長から答弁いただきました。来年も早速、行うということで、大変望ましい形なのかなと。ただ、消費者の会の方は、あえて会の名前を言われたので私も申しあげますけれども、１６年も前からなさっていたと。私も、廃油に関しては、県内市・町で、しっかりと何年も前から取り組んでいるところもあるわけでございます。ある自治体においては、１０年以上も前から廃油の回収をして、しっかりとデータが整理されて、その自治体内の給食関係で出た廃油のおおむね２．７倍とか２．８倍の量を住民の方から回収がなされてあって、それをしっかりと資源化しているという状況にもございます。それは、その行政においては月に１回、回収が行われて、ペットボトルに油を入れて、缶とかびんとかコンテナが並ぶ横に廃油もしっかりと置いて、今まで一度も火事とか、そのような危険な状況はなかったという事例もあるわけでございます。

そのことを考えますと、また、先ほど会の方々と御検討されるというお話もありましたけれども、会の方の何人かの方からお伺いしますと、やはり町で月に１回とか、そのぐらいの勢いでやっていただきたいという思いが、何年も続いている思いがあるわけでございますが、それを酌み取った形で再度、答弁願います。

○議長（吉田敏郎）

環境防災課長。

○環境防災課長（石井直樹）

今の御質問にお答えいたします。

今、お話がありました回収を月に１回、行っている自治体があるということでございますが、その辺につきましては、今後、調査研究をいたしまして町の方向を考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（鳥海仁史）

ただいま前田議員から廃食油の回収についての町の取り組みについて御質問でございますけれども、やはり今、議員からの御指摘にもありましたように、各家庭の廃食油、それと町で行っております学校の給食事業、こういうところから廃食油というものが出てきておるわけでございますけれども、そういうものの再資源化というところの視点からも、今後、取り組んでいくべきかなというところはございます。

それとあわせまして、そういう食用油、これを扱っているような事業者さん、こういうところにも声をかけていくべきかなとも考えております。実際にスーパーさんなんかでは、それなりの回収のルートというものも設けているようでございますけれども、そういうところとも兼ね合わせて、今後、取り組んでいきたいと考えるところでございます。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

部長、今、答弁いただいたように、給食から出る廃油の話も出ましたが、現況、開成町の平成３０年度の幼・小・中の廃食油、２千５８７キロあったと聞いておりまして、先ほどのある自治体のということで考えますと、その３倍近くとなりますと７千７６９、７．８トンぐらいの、かなり雑駁な計算ではございますが、そのぐらいの廃食油を本町でも回収できるのかなと考えます。

先ほど９月１日に１３０キロという回収ができたと。それは、計算をした中でも２０分の１、２千５８７キロと、現在、幼・小・中の教育現場で回収されている廃食油の２０分の１に当たる廃食油の回収が９月１日の数時間で行われたという、数字的にもかなり有効な形で町民の意識、ニーズが高いことだと、さらに強調させていただいて、廃食油に関しては早急に大きな施策が展開されることを期待いたしまして、この件についての質問は終わらせていただきます。

先ほど自治活動応援課から発行の町民公益団体という紹介があったチラシの中に、教育現場から文命中学校の心洗組が取り上げられておるところでございます。教育現場においては、ＳＤＧｓの副読本が国連で採択されてから高校に配付され、また、中学校区という形でも副読本が国から配付されておると思いますが、現状、ＳＤＧｓ思

考の教育現場の展開をしていくということは大変に重要なことと考えますが、現況、この副読本の活用の状況とＳＤＧｓの視点からの教育現場について質問をしたいと思います。現状と今後の取り組みについて、御質問いたします。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、私から、副読本というお話がございました。これにつきましては、中学校への配付ということで依頼がございまして、中学校に配付してございます。ただ、確かに副読本という名称なのですが、実態としてはＳＤＧｓの理念を示したパンフレット、１枚もののパンフレットでございまして、こちらにつきましては、具体にそれを活用して教育現場で活動を展開しているという実態までは至っていないという状況です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

実は、数カ月前でしょうか、開成町の教育民生常任委員会の所管の関係で南足柄市さんに図書館の件で視察をいたしました。そのときに私が司書の方に、今、対応している中で、この本が足りないよという、そのような内容はございますかとお尋ねしましたら、ＳＤＧｓに関しての本が要望が高くて、それでちょっと困っていますというお話がございました。ＳＤＧｓが教育現場でどのような、今、状況にあるのか、再度質問いたします。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えいたします。

教育現場では、ＳＤＧｓという文言自体を使ってという部分は、授業等ではそれほど多くは扱っていないかと思いますが、大分、もう昔の話になりますが、有機水銀中毒、いわゆる俗に言う水俣病等々、公害病が随分多数、日本中であった時代から、いわゆる環境にかかわる教育については非常に重視して文科省、県、そして学校現場、行っています。その部分からすれば、かなり環境にかかわる教育は進めていると。それから、それにかかわる書物につきましても、各学校図書室に、ずばりそのままの名前のものの本はございませんが、環境にかかわるような本、福祉にかかわるような本、書物等は、かなりそろえているかなと思っているところです。

町内の幼稚園、小学校、中学校につきましても、今のような視点から、さまざまな環境にかかわる取り組みを各教科等で、あるいは教育活動全体で行っている実態です。ＳＤＧｓという、ずばりそのものを前面に出しているわけではないかなと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

教育長の御答弁、最初と最後の中で、ＳＤＧｓ、ずばりそのままの名前のものは現在、目にされていないということでございますので、早速、ずばりそのままのその名前のものを置いていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それで、実は、私、今回、この質問をさせていただくことで、幾つかの県内のＳＤＧｓの先進的な取り組みをしている講演会ですとか、さまざま参加させていただいた中に、そのたびに中学生が登壇をされたり高校生が登壇をされていることを目の当たりにいたしました。ＳＤＧｓ思考が、本当に新学習指導要領もＳＤＧｓなくしては推進していかないということを、はっきり、その辺の講師の方もおっしゃっていたわけでございます。その中で、しっかり私もＳＤＧｓに対しての思考を、また感覚を持っていかないと取り残されるなというぐらいの勢いでの発表でございました。

中学生の方は平塚での御講演で話をされておりまして、また、高校生は川崎でお話をされていましたが、高校生のことを一つだけ紹介をさせてください。高校生は、川崎の中にある高校でございます。これはオープンな形なので、お名前はあえて申しあげますが、多摩高校の女性３人です。リケ女、リケ女と言うのですよね、理数系に特化した形のクラス編成の中で頑張っている彼女たち３人だったのですが、廃棄食品を使ってアイフォン８を充電するということに取り組んだそうです。先ほど来、食物の話をしましたけれども、そうしましたら、最後に行き着いたのが、腐りかけるというものは酸性が強くなって、それから電池の役割を果たすと。最後に残ったレモンとキウイ、でもキウイが１ボルト出たのですというお話をされていました。

そこで、その高校は「１日ＳＤＧｓデー」というのを設けて、ＳＤＧｓの１７のカテゴリーから一つ選んで独創的な授業をしているというお話でございました。当初、ＳＤＧｓというのは、何か真面目過ぎるとか、何か遠い存在だなとかと校内の生徒たちは思っていたそうですが、そのうちに私たち一人一人の行動が未来につながるのだ、だから着実に今できることをやらなくてはいけないのだというように考え方が変わりました、ですから、今はＬＩＮＥの中でもＳＤＧｓという言葉が飛び交って、「町の中でＳＤＧｓのバッジをつけたおじさんに会った、すごいね」とかというようなＬＩＮＥも飛び交っている状況でございます。

教育長、ＳＤＧｓ、ずばりそのものの本をぜひ目にする形で子どもたちに提供していただきたいと思います。いかがでしょう。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

今現在、ずばりという本は私自体も余り目にしていないのは実態でございますが、来年度以降、教育課程が新学習指導要領になってきますので、その教科書等にはこの

文言が大分色濃くそれぞれ出てくるようになると思います。それにあわせた書物等のそろえなども、順次行ってくるようになるとは思っています。ただ、その名前がないからとて、やっていないかと思ったときには、教育現場では古くから着々と環境教育や福祉の教育やら、いわゆる国が課題としていることにつきまして文科省等から学校現場におりてきていますので、着々と素地は養ってきているというところでございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

今、教育長がおっしゃるように、さまざまな講演会、また講習会でも、ＳＤＧｓそのものは、普段、我々がやっていることだということは、もちろん私も承知しているところでございまして、日本総合研究所の渡辺先生と村上先生のお話の中で、ＳＤＧｓの１７の目標をよく見てみると、あなたの子どもや孫、それから子孫世代が安心して暮らしていくことのできる世界をどうやってつくっていくのか、そのために私たちが今、取り組むべきことは何かについて書かれていることに、皆様、気づかれるでしょうと。既に取り組んでいることがあることにも気づかれるでしょうと。節電やごみの削減など、地球環境の保全につながる取り組みも積極的に行っています。自治体では、行政として当然広くかかわっています。だから、今の取り組みでもＳＤＧｓの目標達成に貢献していると言える組織にもなっております。

しかし、国連が今回、このように打ち出したのは、もっともっと工夫できることがあるはずだということをＳＤＧｓは私たちに投げかけておりますと。それは、国際社会の合い言葉であるということでございます。現在の取り組みをＳＤＧｓの観点から見直す、しっかりと世界の困り事を自分の困り事として対応していくことが大事だとおっしゃっております。

このＳＤＧｓの視点においては、昨日も今朝もＮＨＫのニュースでございましたが、地球温暖化対策のことでも、環境省が２１００年未来ということで、国連の会議ＣＯＰ２５でも、今すぐ生活を変えないと命が危ないと国連の事務総長が訴えをかけていました。町長、開成町、町の社会的責任として、ＳＤＧｓについて、町民に対してどのような思いで町長として今後、啓発、推進をされていくのか、最後にお伺いをしたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

ＳＤＧｓという理念は大変重要なのですけれども、なかなか、スタートが国連の採択ということから来ているので、遠い存在というイメージが実はあるのではないかなと。今、ＳＤＧｓといういろいろな１７のゴールのマーク、絵柄が目立つような形で出ておりますけれども、なかなか、それを一人一人にＰＲするというよりは、その中

のたとえ一つでも自分の実感として感じられるようなＰＲの仕方をしていかなくてはいけないのかなとすごく感じます。

今年、１０月に台風がありました。相当、気象庁から危険な台風だという、命にかかわる台風だという話がありました。１００年に一度の話が、近年、毎年、そのようなことが起きる可能性が出てきている。開成町でも、はじめて避難準備というものを出させていただきました。ということは、我々の普通の今の生活をしていると、これが毎年起きてしまうという。

しかし、今回、新庁舎の中で、エネルギーをできるだけ使わない。この間、鍵の引き渡しがありましたけれども、設計業者さんかな、この庁舎は東京ドーム４個分の森林のＣＯ２を削減しているという話がありました。できることはあるのです。町ができること、また個人ができること。今、消費者の会の話がありました。廃油の話、エコバッグの話、また、先日、小田原地域連合のいろいろな意見交換会の中でフードバンクという話が出てきました。

できるだけ無駄にしないということが全ての環境についてかかわってくるという、一人一人がそういう意識を持って暮らしていくことによって気象環境を変えていく、それによって、このような大きな台風が毎年来るようなことがなくなるかもしれない。そういう身近な話として一人一人に伝えていかないと、なかなか１７のゴールの話をしても、自分にどうかかわるかということの意義が理解できないのかなと。県が２割以下と言いましたけれども、２割なんか、とても私はいっていないなと。表題として、この絵を見たことはあるかもしれないけれども、中身について一人一人が理解されている方はほとんどいないのかなという。

そういう、今、状況でありますので、そうではなくて、やはり、このＳＤＧｓを使って、一人一人が何かしら行動することによって自分たちの将来、子どもたち、孫に対して責任を持てるということにつながるということを理解してもらえるようなＰＲ活動をこれからしていきたいと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

前田議員。

○１１番（前田せつよ）

町長から答弁がありましたとおり、町として、また個人として、ＳＤＧｓの思考、認識をいしずえに、もっともっと工夫できること、もっともっとやはり地球市民という感覚を持って、開成町も日本初というＺＥＢでございますから、世界に先駆けるＳＤＧｓの理念が構築するぐらいの勢いでまちづくりを進めていただきたいと思います。

これをもって私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（吉田敏郎）

これで前田議員の一般質問を終了といたします。